

第2学年 生活科【R6 授業】

【研究テーマ】令和5・6年度 清瀬小学校 校内研究

いのちの学習～教科横断的な6年間の学習プログラムの作成を通して～

1 ブロック目標「いのちプロジェクト低学年～いのちのあたたかさを実感する児童の育成～」

2 単元名「生きものはかせになろう」

3 単元の目標

- (1) 身近な生き物を探したり、観察したりといった継続的な飼育を通して、育つ環境・成長・変化に関心をもって関わるができる。
- (2) 生き物は生命をもっていることに気づき、生き物に親しみをもち大切にしようとする。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①生き物との関わりを通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ②生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ③生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	①生き物の育つ場所・変化や成長について考え、観察したり工夫して世話をしたりしている。	①身近な生き物に関心をもってすすんで働きかけ、生き物に親しみをもち、大切にしようとしている。

5 指導観

(1) 単元観

本単元には、小学校学習指導要領（平成29年3月 告示）第2章 各教科、第5節 生活から、主に下記の内容に基づき設定している。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

本校の教育目標を具現化する学校経営方針に「生き方を学ばせるキャリア教育の実践（いのちの学習実践）」とある。「いのちの学習」において、低学年では「いのちのあたたかさ」を「いのちの大切さ」と捉え、児童が実感もって学習できるようにしていく。

本単元では、ヤゴやダンゴムシの飼育を通して、単なる興味本位の関わりではなく、じっくりと対象と関わることを体験させていく。全ての生き物には命があることに気づき、どの命も大切にしようとする姿の実

現をねらいとする。飼育活動は、児童にとって興味深いものである。しかし、活動が目新しいうちは興味を示していても、長期間対象と向き合って持続的に飼育するとなると簡単にはいかないものである。生き物を飼うということは、その命を預かっている、生死が自分の手に委ねられているということであり、責任をもって世話をすることが必要であることに気付かせたいと考える。また、一生懸命世話をしたとしても、思いがけず死に直面することも予想される。どんなに小さな生き物でも生命があり、その預かった命を守めることは容易ではないと知ること、生命を考える大きなきっかけとなる。そして、自分たちにも命があり、たくさんの人に守られているのだと考えさせることにつなげていきたい。また、朝顔の学習で実感したように、命が繋がっていること、すなわち命の連続性に気付くために様々な生き物の飼育でも体験し、自分も同じように命を受け継いでいることに気付かせたい。さらに、3学期の「こんなに大きくなったよ 広がれわたし」では、自らも周りの人に大切に育てられて成長していることに気付くことに繋げていきたい。

(2) 児童観

1年生の時に一人一人が朝顔を栽培し、世話を続けていくことと朝顔の成長を観察することを体験した。一粒の小さな種から、芽が出て葉が出て蔓が伸び、花が咲き、たくさんの種ができることから、命の連続性を実感することができた。

また、「生きものとなかよくなろう」の単元では、近くの広場で虫探しをした。バッタや蝶々、ダンゴムシなど様々な虫と出会うことはできたが、生き物を飼育する体験はまだ行っていない。

昨年度、同児童に行ったアンケートによると「動植物を育てたり、飼ったりしたことがある」と回答した児童は8割強いて、そのうちの5割が動物や虫などの生き物を飼ったことがあると回答している。また、今回のアンケート結果からも6割の児童が虫を飼ったことがあると答えている。この結果から児童にとって虫などの生き物はとても身近であることが分かる。しかし、児童の中には「虫が苦手、気持ち悪い、触れない」という児童が見られる。これまでの経験に個人差が大きいことが考えられる。

この単元を通して、小さな生き物であってもそれぞれに1つの命があることを実感させ、生き物に対する親近感を感じたり、愛着をもって接したりすることができるようになせたい。そして、粗末にしたり軽々しく扱ったりしてはいけないということに気付かせたい。また、生き物を大切に世話をした自分自身の姿や成長にも気付いてほしい。「いのちの学習」を通じて、命の大切さや生き物のことを考えながら世話をした自分自身の成長を認めることができる児童を育てていきたいと考えている。

(3) 教材観

本教材は、校庭や公園の生き物に目を向けている子供たちの興味・関心を生かして、生き物探しから生き物の飼育や観察、そしてそれらを行って気付いたことなどを伝える活動を行う。一人一人が興味のある生き物を飼育することで、生き物の育つ場所や様子、特徴などに気付きながら生き物とより深く関わり、命の大切さや生き物のことを考えながら世話をした自分自身の成長に気付くことができる教材だと考える。

6 単元の指導計画と評価計画（全14時間扱い）

時	目標	○学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)	研究テーマとの関り □いのちのあたたかさ
小单元1 「生きものの ことを話そ う」 1時	身近な生き物 の種類やいる 場所について 話し合う。	○見たことがあったり、知って いたりする生き物について、こ れまでの生活経験をもとに発表 する。 ○生き物をどんなところで見つ けたのか思い出し、生き物探し に行くための準備をする。	ウー①(発言・ ワークシート)	
小单元2 「生きものを さがそう」 2時～3時	身近な生き物 に関心をも ち、生き物の いそうな場所 を考えること ができる。	○校庭や中庭で生き物を探す。 ○どのようなところに、どのよう な生き物がいたのか、発見カー ドにまとめる。	アー①(行動観 察・ワークシ ート)	
小单元3 「生きものの せわのしかた を考えよう」 4時～6時	生き物が快適 に過ごせるよ うにすること の大切さに気 付き、生き物 の特徴に合っ た世話をする ことができ る。	○飼育する生き物について、知 りたいことを考える。 ○すみかやえさ等、世話をする ために必要なことを調べる。 ○班でどのようなすみかにする か話し合う。 ○飼育したい生き物を探しに行 き、捕まえてくる。 ○班で役割分担をしながら、実 際に世話を始める。	イー①(行動観 察・発言・ワ ークシート) アー③(行動観 察・発言・ワ ークシート)	□班で決まった生き物 を飼育することでいの ちを預かることの重み を感じる。
小单元4 「じっくりか んさつしよ う」 7時～10時	毎日の世話を する中で、生 き物の動きや 生態を観察し て、成長や変 化に気付く。	○生き物を観察し、分かったこ とを観察カードに記入する。 ○観察して分かったことを学級 で交流し合う。	アー①②(行動 観察・発言・ ワークシート)	□元気がなくなって世 話ができなくなってし まって自然に返した り、死んでしまったり しても、精いっぱい世 話をした時の自分の気 持ちや行動自体に価値 があることに気付かせ たい。生き物の様子だ けではなく、自分の気 持ちが時系列で分かる ようなワークシートを 活用する。
小单元5 「生きものの	これまで育て てきた生き物	○観察を通して気付いたことを どのように発表するのか計画を	アー③(発言・ ワークシート)	

ひみつを知らせよう」 11 時～14 時	の成長の様子と自分の気持ちの変化を振り返り、自分なりの表現で工夫してまとめ、生き物を紹介し合う。	立てる。 ○ポスターや説明文など、自分なりの表現方法を選択し、生き物の紹介をまとめる。 ○学級で発表会を行い、自分が調べたことや気付いたことを友達に紹介したり、友達に感想を伝えたりする。 ○ワークシートの中の自分の気持ちの記述を追い、自分自身の成長を振り返る。	ウー①(発言・ワークシート)
-------------------------	--	---	----------------

7 本時案（全 14 時間中第 5 時）

(1)本時の目標

友達と話し合ったり、調べたりして、生き物の特徴に合った世話をしようすることができる。

(2)本時の展開

時間	○学習活動・C:児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価規準（方法）
導入 5 分	○前時の学習を振り返る。 C：すみかについて調べたら、土をひくことが必要だと分かりました。 C：それぞれの生き物の食べ物やすみかを知りました。 ○本時のめあて、学習の流れを確認して見通しをもつ。 はんで虫が生活しやすいすみかを考えよう。	・前時のワークシートから学習を振り返らせる。 ・めあてを児童と一緒に考える。
展開 30 分	○個人で調べたえさやすみかについて班で発表する。 C：隠れる場所があるといいです。 C：土が必要です。 C：湿ったところが好きです。 ○班でどんなすみかを作るか話し合い、ワークシートにまとめる。 C：隠れる場所があるといいから、石を入れるといいね。 C：葉っぱの下にいたから、葉っぱを入れた方がいいかな。 C：湿ったところが好きだから、霧吹きで水をあげよう。 ○班ごとにワークシートに書いたすみか作りの計画を発表する。 ・自分たちが考えたすみかの中で、各班で一つ工夫した点について発表する。	・順番を決めてから、全員が発表できるように声掛けをする。 ・ワークシートの書き方を説明する。 虫かごの絵の中に、必要なものの絵や言葉をかくように伝える。 ・生き物の気持ちになって、すみかやえさについて考えさせる。 ☆生き物の特徴を捉え、すみかに何が必要か考えることができる。 （発言・ワークシート） ・特に工夫した点について発表させるようにする。 ・タブレットを使って、ワークシートをテレビに映し出し、共有できるようにする。

ま と め 10 分	○まとめ ・他の班の発表を聞いて気付いたことを発表する。 C:生き物によってすみかに入れるものが違う。 C:生き物によってすみかも違う。 生きものによってすみかやえさがちがう。 ○ふりかえり・時次の予告	・生き物によってすみかやえさが違うことに気づき、一つ一つ異なる命だと気付かせたい。 ・今回話し合ったことをもとに、実際にすみか作りを行うことを伝える。
------------------------	---	---

(3)板書計画

5/22(水) 生きものはかせになろう

めあて

はんで虫が生活しやすい
すみかを考えよう。

<がくしゅうのながれ>

- ①はんのみんなにつたえる。
- ②はんで話し合い，ワークシートにまとめる。
- ③ぜんたいにはっぴょう

まとめ

- ・生きものによってすみかやえさがちがう。

→

すみかをつくろう！

(4)授業観察の視点

- ・生き物の視点に立って、すみかについて考えることができたか。
- ・本時の活動は、「いのちのあたたかさ(=大切さ)」を実感させることにつなげるのに適切であったか。
- ・身近な生き物を数種類扱ったことは、いのちを預かることの重みを感じさせるために有効であったか。